個人表彰

三重県尾鷲市

内山裕紀子氏

着地型エコツアーで地域課題を解決

―世界遺産・熊野古道伊勢路で自主運営のツアー―

● 内山裕紀子

伊勢から熊野につながるみち「熊野古道伊勢路」は、熊野詣の旅人や西国巡礼者たちが歩いた信仰の道でした。「熊野七坂　七坂つきてもなお坂つきぬ」と歌われたように、いくつもの険しい峠を越える苦難の道のりでしたが、それでも、ある人は肉親供養のため、ある人は病気平癒のため一縷の望みをかけ、熊野を目指し歩きつづけました。この祈りの道・熊野古道伊勢路は、２００４年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録されました。

熊野古道エコツアー

紀伊半島みる観る探検隊

熊野古道伊勢路「馬越峠道」

地域課題を解決したい

私は２００２年に三重県尾鷲市にUターンしました。健康づくりのため熊野古道を歩き始めましたが、当時は世界遺産登録前で案内表示や地図が少なく、道に迷う人をよく見かけました。なんとかしたいとの思いから、熊野古道の語り部になり、まちづくりやイベント実行委員など多くの事業に参加して、旅行者目線の意見を伝えてきました。世界遺産登録後は「三重県立熊野古道センター」の建設準備事務所や、隣接する「夢古道おわせ」の体験学習担当として働いていました。

しかし、なかなか解決しない地域課題があることが分かってきました。

「大手旅行会社のバスツアーが増えたが、その大半は日帰りで山道だけ歩いて帰り、地域への経済効果はゼロに等しい」「旅行者と住民との接点が少ないため、住民は熊野古道に無関心・無関係になっていき、今後の保全が危惧される」「広域であることから連携が難しく、行政区分化された観光事業が多く、旅行者にとって分りにくい」等々。

これらを解決していくためには、エコツーリズムの理念に基づく着地型エコツアーを実施することと、コミュニティビジネスで新たな流れをつくることが有効ではないかと思い、２００８年「くまの体験企画」を開業しました。

熊野古道エコツアー

熊野古道伊勢路や熊野三山など広域に着地型エコツアー24種類を行っています。16人の登録ガイドと共に、個人やグループ貸切りのきめ細かな対応を行い、安心して参加できる、心に残る旅を提供しています。旅行会社や宿泊施設との提携、視察研修の対応、講演なども行い、補助金などに頼らない自主運営にこだわっています。

また、歴史研究者として郷土の歴史文化の理解を高める活動や活用を行っています。なかでも、地域住民と協働で文化資産の見直しを行い活用するウォークイベント「紀伊半島みる観る探検隊」は、熊野古道の周辺地域も含めて「面」として捉え、生活古道、集落跡、産業遺産など場所を変えて開催しています。今年で60回を超え、リピーターも多く、地域資源を発掘するエコツアーとして定着しました。

自分を見つめなおす旅

いにしえの旅人や巡礼者たちも、歩いているうちに自分を見つめ直し、住民の優しさにふれ、これからも頑張って生きていこうと思ったことでしょう。今、旅の形態は変わっても、エコツアーに参加して感動し涙を流される方や、「一生忘れられない思い出になりました。明日から頑張ります」と言って戻って行かれる方が少なくありません。この素晴らしい旅の文化が後世まで伝えられていくよう、これからも熊野古道を歩き続けたいと思っております。